共立女子大学大学院　看護学研究科　カリキュラムツリー

ディプロマ・ポリシー

DP 1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
客観性・自律性	看護実践上の課題探索	制度・組織上の課題探索	連携・協働	研究能力・課題解決力	リーダーシップ
広い視野に立ち、療養生活並びに健康生活を支える看護学及び看護実践に関連する理論と最新の知見を身につけ、専門的な立場から主体的な判断のもと行動することができる。	社会や専門分野の動向をふまえて、療養生活並びに健康生活を支援する看護実践上の課題を見出すことができる。	療養生活並びに健康生活を支える環境を改善するために、保健医療福祉の政策・制度、組織及びシステム上の課題を見出すことができる。	ケアの対象者並びに多職種の持つ多様な価値観や背景を理解し、連携・協働して、研究及び看護実践を推進することができる。	療養生活支援並びに健康生活支援の向上、発展に向け、研究を計画・実施し、課題解決のための方略を提案することができる。	培った研究能力及び看護実践能力を基盤に、他者との協働関係を作り、率先して行動することで、広く社会に貢献することができる。

カリキュラム・ポリシー

特別研究

CP3

『共通科目』『専門教育科目』を通じて修得した、幅広い視点と専門的な観点から課題を捉え、分析し、解決策を考案していく能力を基盤に、指導教員の研究指導を受けつつ、学位論文をまとめていく集大成の科目として『特別研究』を設ける。

専門教育科目

CP2

『専門教育科目』においては、看護学及び看護実践に関連する理論と最新の知見を通して健康課題を分析し、専門性を深化させるための科目を、「療養生活支援看護学」「健康生活支援看護学」の各領域に配当している。また、特定の分野に焦点をあて、専門的な知識と思考を修得する<特論>、専門分野の枠を超え、専門性の支えとなる広い視野と知識を修得する<総論>と<演習>の3つの授業形態を設ける。

「療養生活支援看護学領域」においては、病状の回復・安定と療養生活の質向上を支援する看護実践の課題を見出すために必要な研究能力・看護実践能力の獲得を目的とし、看護管理学特論、小児看護学特論、成人看護学特論、老年看護学特論の4つの特論、及び領域としての包括的な知識をもとに教育・研究を一体的に学修できるよう療養生活支援看護学総論と療養生活支援看護学演習を配置する。

「健康生活支援看護学領域」においては、健康増進と生活の質の向上を支援する看護実践上の課題を見出すために必要な研究能力・実践能力の獲得を目的とし、地域看護学特論、母性看護学特論、精神看護学特論の3つの特論、及び領域としての包括的な知識をもとに教育・研究を一体的に学修できるよう健康生活支援看護学総論と健康生活支援看護学演習を配当している。

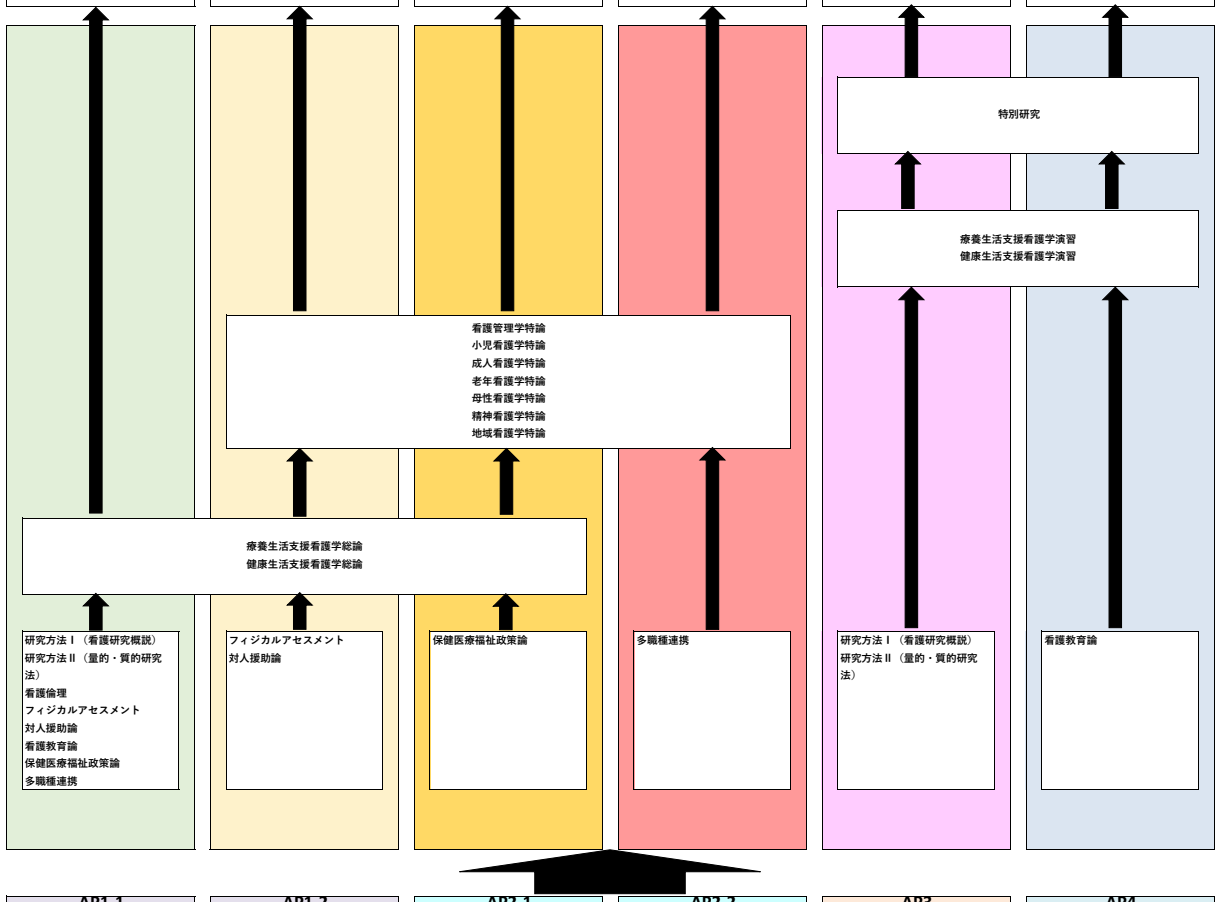
「療養生活支援看護学領域」「健康生活看護学領域」のいずれか専攻する領域の「総論」「演習」、並びに特論1科目2単位以上の修得を必須とする。また、幅広い視野を持って、地域包括ケアシステムの中で研究、看護実践を推進する基盤を養うため、専攻していない領域の「総論」についても履修することを勧奨する。

共通科目

CP1

看護実践上の課題を見出し、研究を計画・実施し、課題解決のための方略を提案する能力の基盤となる研究方法2科目を必修として配置する。

看護実践の質の向上に向けた、高度なアセスメント能力と対人支援能力の基盤となる科目、療養生活並びに健康生活を支える環境の改善に向けて、保健医療福祉の政策・制度、組織及びシステムに働きかける能力の基盤となる科目、並びに ケアの対象者並びに多職種の持つ多様な価値観や背景を理解し高度看護実践を展開、牽引する基盤となる科目、計6科目を選択必修として配置する。



アドミッション・ポリシー

AP1-1	AP1-2	AP2-1	AP2-2	AP3	AP4
本大学院看護学研究科（修士課程）の特徴を理解し、人々の健康と福祉の向上に向けた看護学の発展と看護実践の改善・開発に寄与する意欲を有している。	最新の知見を学び、研究課題を探求することに、主体的に取り組む態度を有している。	看護学の基礎的知識、並びに専攻する専門分野に関わる知識や技能を有している。	専門分野における学修・研究に必要な、英語の基礎的能力を有している。	看護学の基礎的知識や実践経験に基づき、科学的に探究すべき課題を認識し、それを論理的に表現する能力を有している。	人々とその生活を支える環境を等しく看護の対象と捉え、双方に対する看護実践の改善・開発に関心を持つとともに、多様な他者の考えや価値観を尊重して協働関係を作ることができる。

※各科目は「カリキュラム・マップ」でディプロマ・ポリシーとの対応関係が「◎」の科目を記述している。